

第15回全施連全国大会決議

全国知的障害者施設家族会連合会は、2019年（令和元年）10月7・8日二日間にわたって仙台市において、第15回全国大会を開催し、一人で暮らすことが困難で、家族の支援も確実に失っていくなか、制度としてこれ以上の福祉の後退は許されないという思いから、障害福祉制度が知的障害のある人、その家族が安心して託せる制度になることを願って全国から集い語り合いました。充実した公的支援制度の実現が願いです。現在、福祉政策のパラダイムの転換が起きています。「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現政策は介護保険制度、障害福祉に「共生型サービス」を創設し、縦割りから横割り政策に転換し、障害福祉と介護保険制度の一体化、統合が図られようとしています。

私たちは障害者の権利を守り、障害のない人と同等の暮らしができることを求め、次の事項を本大会の決議と致します。

決 議

1. 24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設を新設し、グループホームの質を充実してください。
2. 支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
3. 安定して必要な支援が受けられる支援職員の配置基準の見直しと定員増と職員の処遇改善を急いで下さい。
4. 知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。
5. 生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。
6. 障害福祉制度と介護保険制度との一体化・統合には反対します。
7. 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

2019年(令和元年)10月8日

一般社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会